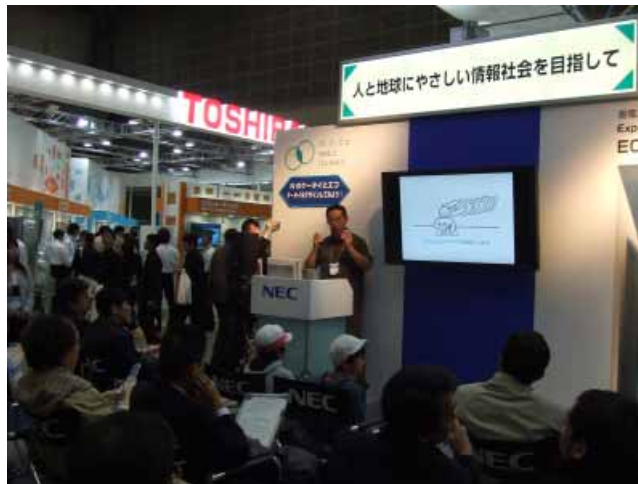


プロジェクト工房レポート

エコプロダクツ 2008

<http://www.eco-pro.com/>



エコプロダクツは明るい未来の正義の見方

今年は 10 年目のエコプロダクツ展示会。テーマは、「もうできる！CO₂ - 50%エコライフ」で、実現可能な未来のエコ暮らしが紹介された。サブテーマは、CO₂ の「見える化」、環境の売り方、とニッポンの環境技術。1999 年の 4.7 万人参加から、2008 年はその 3.6 倍、17.4 万人が参加。全体のアプローチとして、エコプロダクツは明るい未来の正義の見方とブランド化されており、その結果会場の雰囲気は、明るく活発だった。エコへの取り組みは、暗い未来を避けるために止むえなくお金をつぎ込むもというネガティブ視点から、高潔なブランドを作りながら効率化の結果としてコスト削減となる、又は利益を生み出す新ビジネスのチャンスであるというポジティブ視点への切り替わりが感じられた。

年代多様の参加者へアピール

展示会場に入ると、まず参加者の年代多様性に驚く。帽子をかぶった小学生や、学生服のティーンエイジャー達が、スーツを着たビジネスマンと並びブースで説明を聞き、ベビーカーを押したお母さんや、シルバー世代の男女が、大企業のブースで研究者らしき説明員と熱心に話していた。参加した 17.4 万人のうち約 12%が環境学習の児童、生徒。子供たちは、今すぐに環境問題に真剣に取り組み、大幅に CO₂ 排出を減らさなければ、自分たちが大人になる頃には暮らしが大変になる、という教育を受けている。

2008/12/13 ページ 1/1

須田富士子 fujiko.suda@projectkobo.com
www.porojectkobo.com

プロジェクト工房レポート

優秀な人材集め

グローバル単位での若手世代（Y generation）の調査によると、就職先の選択には、社会的に良いイメージを持っている会社にこだわるという結果が出ており、人が快適に暮らせる環境を残すため、できる限りのことを効果的に行っている企業が魅力的とされている。優秀な人材集めという観点では、エコプロダクツ 2008 は、企業が自分たちのストーリーを語る重要な場になっている。



プロジェクト工房レポート

CO2の「見える化」

環境ラベル制度の実用化と普及

販売されている食料のパッケージに成分ラベルがついているよう、カーボンフットプリントと呼ばれるCO2排出環境ラベルの必要性が語られてきたが、この制度の試作品展示エリアには多くの人たちが集まり賑わっていた。2009年にはガイドラインがまとめられ、2010年度には実施店舗にて流通を開始すること。各消費者の意識に働きかけることによって消費行動の変化が加速するだろう。



リンク：<http://www.jemai.or.jp/ecoleaf/news/makimono765.cfm>
<http://www.lnews.jp/2008/08/28617.html>
<http://www.carbontrust.co.uk/default.ct>

プロジェクト工房レポート

ワークプレイス・サステナビリティ測定が可能になった

ワークプレイス・サステナビリティ観点で期待できる具体的な商品とサービスの中に、オフィスでの電気使用による CO2 の測定商品・サービスを提供している企業があった。ジリオン社のインテリジェント・コンセント・システムとオムロン社のトータルエネルギーソリューションの遠隔監視システムはそのタイプだ。ジリオン社のものは、初期投資は大きいですが、一人一人が自分の CO2 排出レベルをリアルタイムで見ることが出来、個が責任を持って行動することを促進できるので、知識労働者のオフィスに適している。オムロンのものは、企業全体のエネルギー使用の測定、ベンチマークが可能となるので、ファシリティ管理者にとっては非常に有難いものだ。また、初期投資価格が低いので導入しやすい。今後知識労働者のワークスタイル変化や、続く都心本社ビル不動産コストの圧縮等を考慮すると、オフィス関連商品・サービスとしては、ジリオン社の概念に期待する。



リンク : <http://www.sensor-net.jp/>

<http://www.zirion.jp/index.html>

数社の展示ブースで最近の企業における環境問題への取り組みの話聞いてみたが、環境問題に直接関係しているのは CSR 部門だという。よって、今後は CSR 部門が社内での環境対策企画を行い、それに基き各事業所、部門に指令していく。ワークプレイス関係となると、そこから来る指示に従い人事、総務、施設部門が総合的にワークスタイル、ワークプレイス変革を企画し導入していくことになる。

プロジェクト工房レポート

環境の売り方

展示会訪問者は、幼稚園生からのあらゆる年齢の学生、ビジネスマン、主婦、シルバーと日本で最も多様な範囲をカバーしている。展示側も、その参加者層を意識したエクスペリエンス作りに工夫を凝らしていた。



環境ビジネス・ポータルの必要性

大企業のブースや中小企業のブースに立ち寄りあらゆるトピックで担当者と話をしたが、中小企業担当者達のビジネス全体の理解や、発展の可能性に対する前向きな姿勢は頼もしかった。いつの時代も小さな小回りの利く組織が新しいことを紹介し、広げてきた。エコビジネスも例外ではない。



住友グループの取り組みは、環境ビジネスを持っている中小企業を繋ぐというもので、この展示会で目立っていた。住友展示エリア内に多数の中小企業のブースが並んでおり、お互いとコミュニケーションが取れる商談エリアなども充実していた。このようなサービスは、環境ビジネスの加速に貢献する。

プロジェクト工房レポート

具体的なエコ・ワークライフの提案

最近までは、オフィスよりも家庭での具体的な CO2 削減の提案が圧倒的に多かった。このところやっとオフィスでのワークライフに対する提案が豊富になってきている。

ニッポンの環境技術

エコは日本では昔から文化、生活の中に組み込まれていた。物を大切に使う、ということとは、今叫ばれているリデュース、リユース、リサイクルそのものだ。日本の大量生産でのモノづくりが世界スタンダードになったのは、無駄を最低限に押さえた効率化であり、効率化はエコアクティビティそのものだ。このような根本的な日本の文化を活かすことにより、グローバル対象にエコ・ビジネスの発展が期待できる。

平成 21 年に省エネルギー法が改正施行されると、今まで指定外だったオフィスビルもいよいよ対象となる。実際、総合的に換算していくと、先進国のオフィスビルが、CO2 の 50% 近くを排出している。そのため、今後オフィスでの省エネ導入を急がなくてはならない。そのための技術は既に多々あり、効果もあるようだ。



商品群

赤外線・紫外線カット・アットシールドクリア http://jepic.ecogate.jp/es-electric/040/post_5/

冷暖房装置 エコウィン <http://www.ecofactory.jp>

断熱効果 ガイナ <http://www.nissin-sangyo.jp/gaina/>

2008/12/13 ページ 6/6

須田富士子 fujiko.suda@projectkobo.com
www.porojectkobo.com